

平成28年度 常葉学園 橘 中学・高等学校
学校自己評価及び学校関係者評価報告書

※1【自己評価の平均スコア】 専任教員68名（非常勤を除く）による4段階（1～4）の自己評価スコアを平均した値
 ※2【項目別の評価の基準】 第2回自己評価平均が3.30以上…A 2.70～3.29…B 2.00～2.69…C 1.99以下…D
 ※3【要素別の評価の基準】 ※2の評価をもとに判定
 ※4【学校関係者評価委員】 P T A 役員、小学校教員、大学教授、卒業生保護者の4名

NO.	評定要素	評価項目	自己評価の平均スコア※1		変化 ②-①	項目別の 評価 ※2	要素別の 評価 ※3	教員自己評価の根拠、留意点等	学校関係者評価委員の意見	
			第1回 (7月) ①	第2回 (2月) ②						
1	教育職員としての 自覚	1.所属校の教育目的・教育目標、教育方針の理解	3.17	3.18	0.02	B	B+	1.本校の教育方針等を理解した上で、職務に当たっている者が大半である。 2.ほとんどが教育者としてふさわしい言動を心がけ、指導者として率先垂範を 実践している。 3.昨年と比べ、積極的な研修参加が目立ち、校外の研修にも大半の者が 自主的に参加している。	・教育目的や目標については学期ごとの最初の職員会議で再確認を行えばより理解が深まるものと思われる。 ・研修などについては、2回目の自己評価スコアがアップしているところから、先生方が積極的に研修などに参加されている様子がうかがわれる。 日ごろ多忙で研修の時間も取りにくいかもしれないが、研修の成果は生徒に様々な形で反映されるので、学校全体で方策を考えていただきたい。 ・私立教員としての意識の向上や品格の高まりが見られたのは、生徒や保護者からの信頼を得る大切な要素であり、募集にも通じるものがある。 学校全体の目指すベクトルが明確であると思われる。 ・校外の研修に自主的に参加しているのは、大変よい傾向である。特に若手の育成のためにも今後も継続して欲しい。 ・卒業式中に出入口付近の職員の私語があり残念だった。	
		2.教育職員としての品位・礼節	3.30	3.33	0.03	A				
		3.教育力向上のための積極的な取り組み	2.95	3.12	0.17	B				
2	勤務状況・勤務 態度	1.学務および事務的業務の確実性	3.17	3.15	-0.02	B	B	1.おおむね期日を守って業務を行っており、反省を述べる者は少ない。 2.よく意識して個人情報の管理を行っている。机の施錠やUSBメモリーを持ち 帰らないなどの管理にもよく取り組んでいる。 3.私学らしく仲間意識が高いため、多くの教員が協力的である。自分の業務 に手一杯で協力ができないことを嘆いている者も少なくない。 4.常に工夫することを意識する者が多い一方で、分担する職務の遂行に手 一杯で、工夫や改善にまで至らないとする者もいる。	・それぞれの職務に対して真摯に取り組んでいると思われるし、成績の処理や個人情報の管理などにも十分に気を付けているよ うに思われる。他の職務への協力については、昨年度も3点未満だったので、その理由についてさらに調査し、改善策を求める必 要があるのではないだろうか。 ・仕事に見通しをもって業務にあたる意識が当たり前になることで、改善や改革が一層進むことになると思われる。 ・項目1のマイナスについて緊張感を持って取り組んでいただきたい。 ・「私学らしい仲間意識」は私学ならではのオリジナリティの醸成につながるもので大切にしたい。 ・形骸化した業務があれば少しでも教員負担の軽減を検討すべきだ。	
		2.情報管理および貴重品管理	3.45	3.48	0.03	A				
		3.他の職務・領域への協力的姿勢	2.85	2.97	0.12	B				
		4.自己の職務への責任と改善	3.18	3.18	0.00	B				
3	学校運営 分掌課長、学年主 任、科・コース主任、 教科主任	1.教育目的・目標・方針に沿った企画・運営	3.18	3.27	0.09	B+	B	1.常に目標・目的を掲げ、意識して運営する者が多い。企画は「生徒・保護 者の利益」を常に意識している者もいる。 2.多くの者が前年踏襲にとらわれず、工夫・改善に取り組んだとする一方で、 人事異動により新しい仕事に慣れるのに精一杯だとする者も少なくない。 3.しっかりと若い教員の意見に耳を傾けた。 4.会議には主体的に参加できており、発言も多い。多くの意見を運営に生か そうとしている。	・大人数の会議では意見が出にくいものだが、A評価になっているのはとても良いことだ。「教員自己評価の根拠」の3と4から、 リーダー的存在の先生方が後輩の意見に耳を傾けて、後輩の先生方が自由に意見を述べるような雰囲気を作っている ことがうかがえる。そのような雰囲気が活気ある学校づくりにつながっていくと思う。 ・新校舎が完成した今こそ、前年踏襲にとらわれない工夫・改善のチャンスだと思う。 ・ミドルリーダーとしての課長や主任は、学校運営の要である。意欲的に取り組んでいる様子が見られ、非常によい傾向だ。ぜひ、 女性のリーダーもたくさん育成して欲しい。異動により環境が変わった者に対しては、前任者からの仕事の引継ぎがスムーズにい くようにデータ管理等の工夫が必要だ。 ・今後も「生徒・保護者の利益」を意識した本校だからこそできる企画・運営を望む。	
		2.新しい企画や工夫・改善策の提案	2.95	2.95	0.00	B				
		3.職務全般の掌握とリーダーシップ	2.86	2.82	-0.05	B				
		4.会議等への積極的な参加	3.23	3.32	0.09	A				
4	学級 経営	学級担任	1.生徒理解と掌握	3.12	3.19	0.07	B	B	昨年度と同様に、第1回のスコアと比較して向上や安定している要素が多い (生徒理解、行事運営、進路指導、保護者対応)。 1.1日1回はどの生徒とも会話することに取り組むなど、生徒理解を深めようと している。 2.新校舎をきれいに使わせるため、清掃指導と点検の意識が高い。 3.試験での達成目標の設定など、熱心に学習指導を行っているが、生徒の 意欲差が大きく全体を変えるまでには至らない。 4.生徒自身が行事を楽しむ姿が見られるようになった。 5.校則は守っても、言葉遣い等のマナーは課題が多い。女子の違反が多く指 導が難しいとの意見もある。 6.進路の発信は積極的に行っており、生徒の意識変化についても肯定的で ある。 7.問題がない生徒の保護者とはつながりが足りない。中学は保護者会が足り ないとの指摘があった。	・生徒についての理解や掌握はよくできていると思う。「学習意欲を高める指導」(4-3)という項目では、昨年 同様にB評価となっているし、2月の調査では本年の方が低くなっている。生徒にとって学習はとても大切なことな ので、研修会などを開いて学習意欲を高める方法について先生方の知恵を出し合ってほしい。学習成果の向上に は家庭の協力も必要であり、保護者との信頼関係をさらに強化するためには、保護者会の回数やそのあり方につ いて保護者の意向を調査するのもよいかもしれない。7の進路・生徒指導の4ともかかわる問題でもある。 ・学級担任が意識して生徒理解に取り組み、生徒指導や学習指導を行っているようだ。しかし、生徒に変化が見ら れなければ、指導をしているとは言いがたい。さらなる向上を目指して欲しい。 ・女子の指導が難しいという意見があるが、共学校の場合、女子が崩れてしまうと全体の雰囲気は悪くなる。常葉 高校に長年いて、女子指導のエキスパートもいるはずなので、女子指導に苦手意識のある教員に 的確なアドバイスをしていただきたい。 ・中学は、保護者会が足りないとはあるが、年間を見通して必要な時期に必要な会を設定して欲しい。 ・学校外で本校生徒の服装の乱れ等を特に感じることはなかったが、保護者への校則と罰則の周知が必要だ。 ・高校でも中学の親学講座のような企画を考えていただきたい。 ・新校舎建設に伴い保護者用駐車場の確保が困難だが、もう少し保護者が行事に参加しやすい環境を整えてほ しい。
			2.教室内の整理・整頓・清掃・私物管理の指導	3.07	3.21	0.14	B+			
			3.学習意欲を高める指導	2.83	3.00	0.17	B			
			4.行事への取り組み	3.14	3.33	0.19	A			
			5.校則・マナー指導	2.88	3.00	0.12	B			
			6.進路指導	3.05	3.19	0.14	B			
			7.保護者との信頼関係	2.93	3.17	0.24	B			
5	副担任	1.学年業務への取り組み	3.29	3.43	0.14	A	A	1.2.どの副担任もサポート意識が高い。ここ数年で副担の人数が減り、サ ポート無しでは学年は回らない。 3.生徒理解に対しても積極的になっている。	・自己評価から副担任の役割の重要さが感じられる。昨年同様A評価であり、積極的にサポートされて いることがうかがわれる。 ・副担任が主任格であることを思えば、問題を共有しあえ、サポート意識が高いのも頷ける。できれば副 担任の人数が少しでも増えるとよい。	
		2.学級経営への補佐	2.79	3.07	0.29	B				
		3.生徒理解	2.71	3.21	0.50	B+				

No.	評定要素	評価項目	自己評価の平均スコア※1		変化 ②-①	項目別の 評価 ※2	要素別の 評価※3	教員自己評価の根拠、留意点等	学校関係者評価委員の意見
			第1回 (7月) ①	第2回 (2月) ②					
6	学習指導	1.指導者としての専門的な知識・技能	2.92	2.97	0.05	B	B	1.知識向上の意識はとても高い。自分の能力に満足する者は少なく、日々研鑽に励んでいる（研修など）。 2.新校舎でのICT機器の活用や集団にあった授業方法などを工夫している（奮闘している）。 3.小テストや宿題は毎回～週1回実施するなど教科内で統一されている。ただし学力向上につながっていないという反省もある。 5.寺子屋（本校独自の自律学習支援教室）に参加していた初めての高三生が立派な進路を達成した。次年度に向けてブラッシュアップしたい。 5.集団に合わせて補習をきめ細かく実施できた。しかし、早朝・放課後・休月中など教員の負担は増しており希望通り増やすことには限界がある。	・小テストや補習の実施状況から、先生方が学習指導に熱心に取り組んでおられる様子がうかがわれる。授業力や教育力（1-3）の向上に努められていることもB+評価から読み取れる。これらの力は教師には不可欠であり、先生方の自信は、生徒の学習指導や生活指導に直結するものであると思うので、さらにさまざまな形での研修の機会を与えるように学校側も努めてほしい。 ・様々な学力の向上を目指すためには、効果が上がっている寺子屋や補習は一層必要かと思われる。教員の負担増にならないように、人材確保や環境の充実を図って欲しい。しかし、それよりも大切なのは、通常の授業で力を伸ばすことである。日々、教材研究等に励んで欲しい。 ・早朝、放課後、休日の負担が増す中、その対応に常々感謝している。宿題の出し方等自宅で学習する機会を増やす工夫があればと思う。 ・寺子屋や0限授業など成績向上につながる取り組みは評価できる。講師の活用などにより制度維持を望む。
		2.授業力向上の努力	3.02	3.22	0.20	B+			
		3.小テストや課題の実施	2.98	3.05	0.07	B			
		4.教材研究、教科研修への取り組み	2.92	3.10	0.19	B			
		5.補習などの課外指導	2.88	3.05	0.17	B			
7	進路指導・生徒指導	1.面談等による高い進路目標を持たせる指導	2.78	2.97	0.18	B	B	1.学期末以外にも個別面談を模試成績が出る機会などに行い、進路と一緒に考えている。高い目標を持たせるにはなかなか至らない。 2.担当教科の学力を伸ばすことに情熱を傾けているが、底上げ的な指導に偏り特性を伸ばす指導まで展開できていないという反省もある。 3.常に面談を通しての心情理解に努めている者が大半である。 4.気になることは手帳や電話で確認するなど、こまめな連絡をしている。信頼獲得の手応えを感じている者が多い。 5.進路課と連携しながら学級通信やホームルームでの発信を行っている。もっと生徒自らが活用していくようにしたい。 6.一貫コースは検定受検を一齐に行っている。他は呼びかけるだけに終わっていることがある。 7.毎日繰り返し指導しているがまだまだである。粘り強く行うしかない。 8.7と同様気がついたことはすぐに指導している。ほとんど徹底できているとする者が多い。	・各種試験の成績が出るごとに個別面談を行い、先生方が熱心に指導している様子が感じられる。試験の成績は生徒の心情に様々な影響を及ぼすが、「生徒の心情・行動」の理解がAとなっており、生徒の立場に立ってきめ細かい指導がなされていることが分かる。生徒に「高い目標をもたせる」ことは一朝一夕にはできないことであり、どのようにそれを高めていくかについて、ワーキンググループなどで、高校3年間、あるいは中高6年間にわたる指導内容を策定してはどうだろうか。 ・三者面談などの進路相談だけでなく、日常生活のいろいろな場面で、個々の発達を踏まえた働きかけを意図的に計画的に行なって欲しい。キャリア教育は、先生と生徒だけでなく、生徒同士での相互の関わり合いの場面でも行うことができるのではないだろうか。 ・職員の情熱が強く感じられる。一方で生徒への働きかけが保護者に伝わりにくいことがあり、その改善が必要だ。 ・個別面談やこまめな保護者への連絡など感謝している。
		2.生徒の学力、特性を伸ばす指導	2.72	3.02	0.30	B			
		3.生徒の心情・行動の理解	3.18	3.30	0.12	A			
		4.生徒・保護者の信頼獲得	2.82	2.92	0.10	B			
		5.進路情報の活用	2.78	2.98	0.20	B			
		6.各種検定(英検、漢検、数検など)の呼びかけ	2.73	2.98	0.25	B			
		7.生活指導(校則・マナー、提出物)	2.97	3.05	0.08	B			
		8.学習環境指導(清掃、私物管理)	3.02	3.15	0.13	B			
8	いじめ対策	1.生徒観察、情報収集による兆候発見	2.95	3.22	0.27	B+	B	1.人間関係の掌握や言葉遣いなど生徒の変化に敏感であろうと努力している。休み時間の教室を見るようにしたが、これで十分ということはない。 2.対策基本方針に沿って学年、生徒課、スクールカウンセラー等と連携し迅速に対応した。	・休み時間にも生徒の様子を観察し、「いじめ」のない学校づくりに取り組んでいることがうかがえる。「いじめ」の感じ方は人それぞれに違うが、特別な取り組みを含め、日々の学校生活全般にわたって注意を喚起し、「いじめは悪」という意識を共有すること（職員間の温度差が生じない工夫）が大切だと思う。 ・いじめ対策基本方針に従って、学校組織として対応がスムーズに行われているのは迅速な指導につながる。 ・いじめ対策の現状を評価するが、さらなる対策が必要だ。
		2.「いじめ防止基本方針」にそった速やかな対処	2.97	3.12	0.15	B			
9	リスクマネジメント	1.SNSガイドラインの遵守	3.63	3.78	0.15	A+	A+	1.ガイドラインを守る意識が高い。多数を対象としたSNSを利用していない者が大半である。 2.常に危機管理の観点から、気がかりなことを放置しないように気をつけているが、まだまだ十分ではない。	SNSを含めて、IT関係の進歩は日進月歩であり、先生方の身を守るために、問題になった事例をことあるごとに紹介し、日ごろから危機管理を徹底することが大切である。 ・リスクマネジメントは大切である。常に意識してほしい。
		2.学校リスクの理解と安心安全への取り組み	3.35	3.57	0.22	A+			
10	特別活動 部活動、生徒会活動、委員会活動	1.活動目的・目標の明確化	3.07	3.09	0.02	B	B+	部活の正顧問と副顧問で評価が大きく異なる。正顧問の自己評価は概ね高く、熱心に取り組んでいる。 1.2.本校の部活動方針である文武両道と、活動を通して人間性を高めことを理解している。 3.クラブの方針や考えを生徒はもちろん保護者にも発信した。 4.月曜日をオフとするなど週1回の休日についてはどのクラブもよく守り、定期試験前の学習時間についても配慮している。 5.6. 透明性を確保し適切に管理できている。	・部活動の先生方の熱心な取り組みが好結果を生みだしていることに感謝する。生徒の意欲を伸ばす指導は昨年を上回るポイントとなっており、さらに良い結果を生み出すことにつながることを願っている。「運営資金の管理・運用」（10-6）は2月期調査のスコアが下がっているが、十分に注意しないと、当該教師のみならず学校全体の信頼を落とすことになる恐れがある。 ・全国レベルの部活動が多くある中、学校の指導方針と指導者の目標・目的との乖離がないように願う。 ・部活指導には大変感謝しているが、人事異動で指導者が替わるときは部活動の方針等について生徒・保護者に十分な説明をし、理解を得るべきだ。
		2.技術的指導+生活指導	3.05	3.05	0.00	B			
		3.生徒・保護者の心情理解	2.88	2.97	0.09	B			
		4.生徒の意欲を伸ばす指導	3.33	3.40	0.07	A			
		5.用具や備品の管理	3.14	3.28	0.14	B+			
		6.運営資金の管理・適切な運用	3.33	3.25	-0.08	B+			
平均点			3.03	3.16	0.13				
昨年度			3.01	3.15	0.14				